

## (10) 四国



四国地域では、景気は弱さがみられるものの、緩やかな回復基調が続いている。

- ・ 鉱工業生産はおおむね横ばいとなっている。
- ・ 個人消費は底堅く推移している。
- ・ 雇用情勢は着実に改善している。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(    は上方に変更、    は下方に変更)

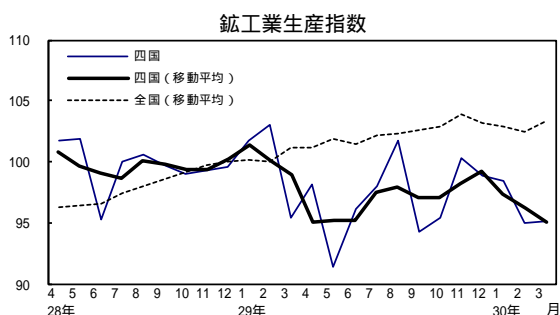
### 前回からの主要変更点

	前回 (平成 30 年 2 月)	今回 (平成 30 年 5 月)	
住宅建設	おおむね横ばい	減少	

### 1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産はおおむね横ばいとなっている。

1 - 3 月期には、化学・石油石炭製品は、医薬品等の生産減から減少した。電気機械は、光電変換素子等の生産減から減少した。食料品は、冷凍調理食品等の生産減から減少した。はん用・生産用機械は、化学繊維機械等の生産減から減少した。非鉄金属は、電気銅等の生産増から増加した。



域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産				
		10-12 月期	1 - 3 月期	1月	2月	3月
化学石油石炭	22.9	2.3	4.8	4.8	8.8	7.0
電気機械	15.8	0.6	3.7	1.6	4.0	0.3
食料品	10.5	5.2	6.2	6.3	1.3	2.3
はん用・生産用機械	10.0	11.0	5.9	15.5	8.5	1.3
非鉄金属	8.0	1.3	4.1	2.0	5.9	1.4
鉱工業	100.0	0.2	2.0	0.5	3.5	0.2

(備考) 1. 22年=100、季節調整値、四国の最新月は速報値。

2. 全国及び四国の太線は中心3か月移動平均。  
直近月は2か月平均。

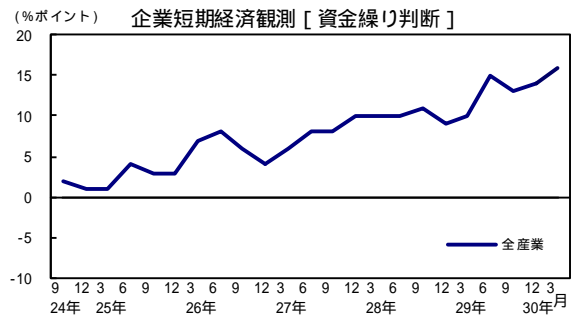
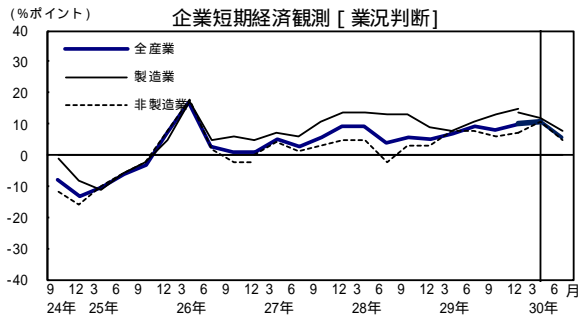
(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。

2. 1 - 3月期、3月は速報値

(10) 四国

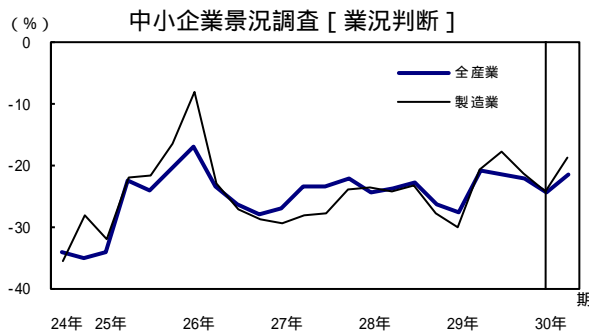
(2) 日銀短観における業況判断は「良い」超幅が横ばいとなっており、資金繰り判断は「楽である」超幅が拡大している。

企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。30年6月は予測。26年12月及び29年12月は新・旧基準を併記。

(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。26年12月及び29年12月は新・旧基準を併記。

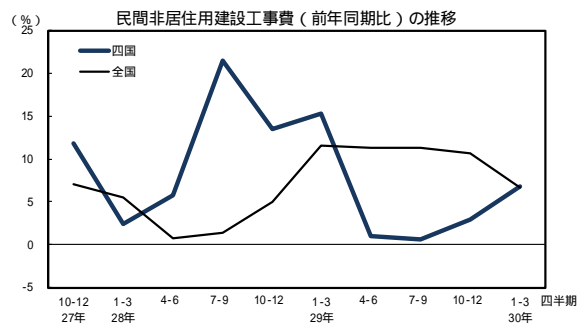


(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。30年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査(4月調査結果)[企業動向関連(現状)]

「前月よりは少し悪いが、ほぼ計画どおりくらいには売上ができると予想する(パルプ・紙・紙加工品製造業)」などの回答がみられた。

(3) 設備投資の民間非居住用建設工事は前年に比べて増加している。



企業短期経済観測調査[設備投資(3月調査)]

	(前年度比、%)	
	29年度実績見込み	30年度計画
全産業	0.4( 3.1)	5.0
製造業	13.9( 2.8)	7.6
非製造業	21.0( 3.3)	17.9

(備考) ( ) は前回(12月)調査比修正率。

(備考) 29年4-6月期以降は国土交通省「建設統計月報」の非居住用建築物工事費予定額を平均工期9.8か月で進捗展開し、その伸び率を基に実績額を延伸。

## 2. 需要の動向

### (1) 個人消費は底堅く推移している。

地域別消費総合指数 (RDEI (消費))

1月は前月比0.3%増、2月は同0.5%増、3月は同0.2%増となった。

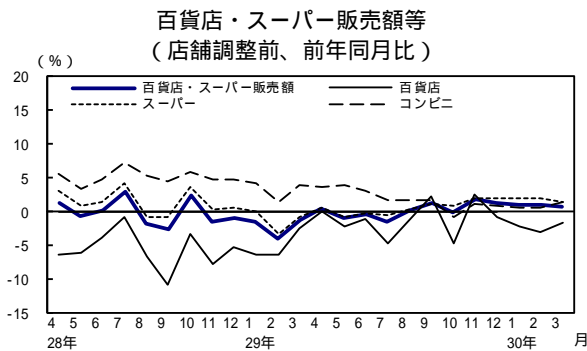
百貨店・スーパー販売額

百貨店は、1月は、化粧品が堅調に推移し、時計などの高額品にも動きがみられるも、寒波の影響もあり衣料品や身の回り品等の動きが鈍く、前年を下回った。2月も、化粧品が引き続き堅調に推移し、時計などの高額品に動きが見られるものの、衣料品や飲食料品については、寒波の影響から来店客数が減少し、全般的に伸び悩んだことから、前年を下回った。3月は、好天に恵まれ日傘、帽子などに動きが見られたものの、衣料品の婦人服、子供服、寝具などの動きが鈍かったこと、飲食料品は物産展などの催事が振るわず、生鮮野菜の動きも鈍かったことなどから、前年を下回った。

スーパーは、1-3月期は、飲食料品で相場高により生鮮野菜の売上が伸びたことなどから、前年を上回った。

景気ウォッチャー調査 (4月調査結果)[家計動向関連(現状)]

「例年よりも気温が高い日が多く、冷たい物の販売量が好調になってきている(コンビニ)」など「やや良くなっている」とする回答が増加した。

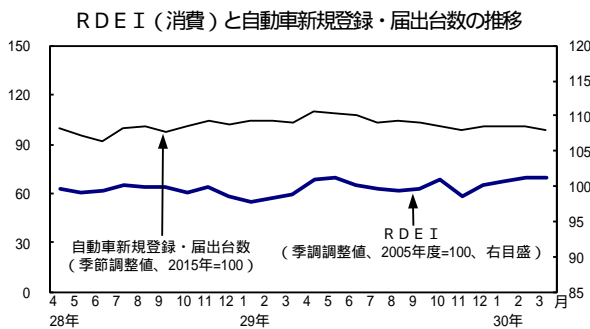


	30年1-3月	30年1月	2月	3月
RDEI (消費*1)	1.0	0.3	0.5	0.2
百貨店・スーパー(*2)	1.0	1.1	1.1	0.7
百貨店(*2)	2.2	2.2	2.9	1.7
スーパー(*2)	1.8	2.1	2.0	1.4
コンビニ(*2)	0.9	0.7	0.5	1.5
乗用車(*3)	4.1	2.3	3.4	5.7
(季節調整値)(*3)	0.0	0.3	0.2	2.4

(備考) 1. 季節調整済前期(月)比(%)

2. 店舗調整前、前年同期(月)比(%)

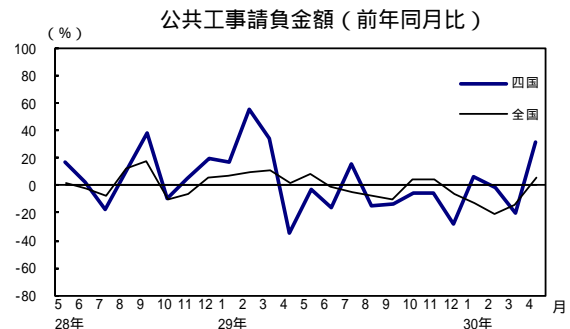
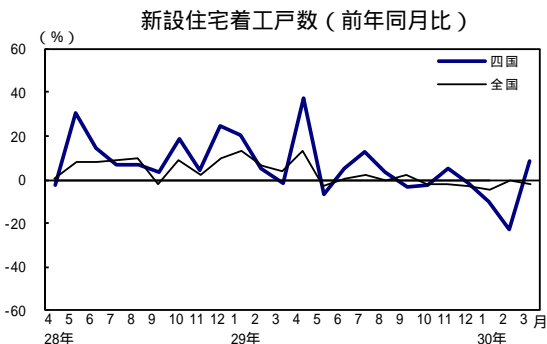
3. 乗用車は、新規登録・届出台数(上段は前年同期(月)比(%) )



### (2) 住宅建設は前年に比べて減少している。

持家、貸家が下回ったことから、全体では減少している。

### (3) 公共投資は29年度累計で見ると前年度を下回っている。



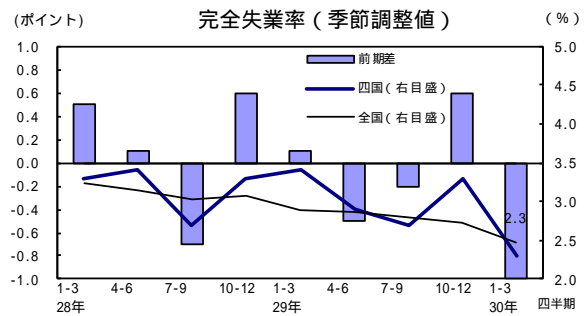
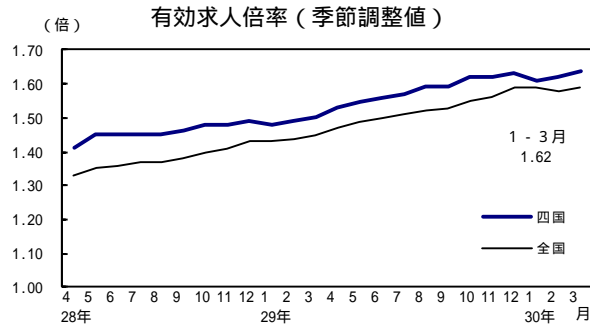
(10) 四国

3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は着実に改善している。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率はおおむね横ばいとなっている。完全失業率は前期を下回っている。



(備考) 内閣府にて季節調整をおこなったが、季節性が認められなかったことから、原数値と同じ。

景気ウォッチャー調査 (4月調査結果)[雇用関連 (現状)]

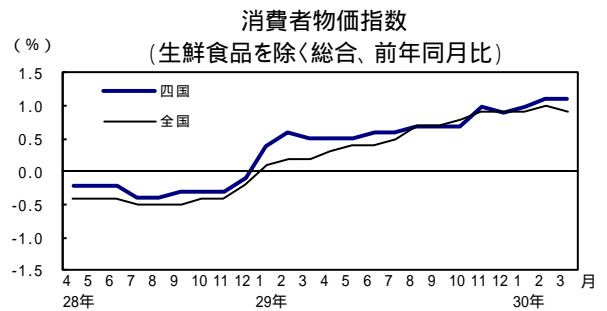
「新年度が始まったが、求人関係は人手不足が続いたまま、企業の採用人数が高止まりしている (求人情報誌)」などの回答がみられた。

(2) 企業倒産は前年に比べて件数、負債総額ともに増加している。

(3) 消費者物価指数は前年比の上昇幅が拡大している。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	29年4-6月	7-9月	10-12月	30年1-3月	30年4月
倒産件数	42	30	37	42	16
(前年比)	13.5	21.1	37.0	40.0	45.5
負債総額	115	53	57	120	15
(前年比)	12.1	26.6	15.5	79.6	123.9



景気ウォッチャー調査 (季節調整値)

